

いのちは家族によつてつながつていく



うまれる命 旅立つ命……。3組の家族の生と死を描いた、笑いと涙、愛の物語。

うまれる

ずっと、いっしょ。



ナレーション 樹木希林

企画・監督・撮影：藤田トモ プロデューサー：牛山朋子 音楽：古田秘馬 アートディレクター：溝田明 構成：上村直人
主題歌「ずっと、いっしょ。」 2014 / 日本 / デジタル / カラー / 122分
製作：インディゴ・フィルムズ 配給・宣伝：ミモザフィルムズ 配給協力：スターサンズ 宣伝協力：レム ©2014 Indigo Films

企業サポーター：



OMG PARTNERS



www.umareru.jp

うまれる 🔍

大ヒット・ドキュメンタリー「うまれる」の

監督とメインスタッフが再結集

4年の歳月をかけ、笑えて、泣ける、感動の
“家族”をみつめるドキュメンタリー映画が完成！

クチコミや自主上映で瞬間に広がり、40万人を動員、

観る者を号泣させたドキュメンタリー映画『うまれる』。

生命の誕生を見つめ、様々な人生の選択とそこから生まれるドラマに寄り添った感動から4年。

さらにテーマを深め、「家族とは何か」を問う、第二章『うまれる ずっと、いっしょ。』が、うまれた。

本作には、「最愛の妻を喪った夫」「血の繋がりが無い父と息子」、

そして“重篤な障がいを持つ子を育てる夫婦”の、3家族が登場する。

彼らの姿を通し、観る者は、常に密接にある“生と死”を凝視しながらも、そこから脈々と受け継がれていく“いのち”、

生きる力、そして、その土台となる“家族の在りよう”に、深く感銘し、胸を打たれずにはいられない。

STORY



■血のつながりのない息子を育てる父親

安田家／慶祐（30歳）千尋（34歳）呉矢（5歳）

講師を務めるフラダンス教室で、慶祐は千尋と出会い、結婚。千尋には2歳になる息子、呉矢がいた。5歳になり、自分を実の父親であると疑っていない呉矢に、慶祐は事実を伝えるべきか、迷う。今までの関係が壊れてしまわないか、不安に押しつぶされそうになりながら、慶祐は呉矢に大事なことを伝えたい、と重い口を開く。



■最愛の妻を失った夫

今家／賢蔵（65歳）順子（享年65歳）真由美 美奈子
末期の大腸がんを患っていた妻・順子が、闘病の末、自宅に戻る。結婚した2人の娘も実家に戻り、残された時間を家族と共に過ごすことに。長女のお腹にいる4人目の孫の誕生を楽しみにしていた順子は、家族に見守られながら、「幸せ。ありがとう」と涙を流し、静かに息を引き取る。賢蔵は、42年間連れ添った妻の死を受け入れられず悲嘆の涙にくれるが…。



■不治の障がいを持つ子を育てる夫婦

松本家／哲（40歳）、直子（41歳）、虎大（2歳）

1歳まで生きられる確率が約10%と言われる、18トリソミーという染色体の障がいを持って生まれた虎ちゃんは、前作で1歳の誕生日を迎えた。2歳になり、たくさんの笑顔を見せるようになり、できることも少しずつ増えていた。だが突然、虎ちゃんが危篤状態に陥る。哲も直子も、虎ちゃんの死を覚悟するが…。

家族って、何だろう？

僕は、父親になれるのだろうか？

誕生をテーマにした前作『うまれる』（2010年）の公開と同時に娘が生まれ、小さく愛おしい命を目の前にした僕は、率直に「いい親になりたい。家族と幸せに一生を過ごしたい。」と思いました。でも、それは自分が期待するほど簡単な作業ではないとすぐに気づかされました。

それは僕が抱えて来た「家族の肖像」が、あまり理想的なものではなかった事と関係しているかもしれません。

それから、4年あまり。カメラを片手に様々な家族を追いかけて完成したこの作品は、家族とは、父親とは、幸せとは、という様々な不安、責任、そして希望を追いかけた僕自身の心の記録です。

映画を観ていただいた方、それぞれに、感じていただけることがあると信じています。

監督 豪田トモ



家族とは、大変な時も、喜びの時もある。
人間はそういうものですが、問題を抱えながら
生き続けていくのだと思います。
本作にはたくさんのメッセージが詰まっています。
観る人には、それを「心で」感じて欲しいと
思います。



樹木希林
(ナレーション)



40万人が涙した前作『うまれる』（ナレーション：つるの剛士）は、全国で自主上映会を開催しています。

鑑賞・開催はHPで（<http://www.umareru.jp/umareru/>）

うまれる

ずっと、いっしょ。

ナレーション：樹木希林

企画・監督・撮影：豪田トモ

製作：インディゴ・フィルムズ 配給・宣伝：ミモザフィルムズ

©2014 IndigoFilms 2014/日本/デジタル/カラー/122分

うまれる www.umareru.jp

イオンシネマ多摩センター
テレホンサービス 042-355-8700
<http://www.aeoncinema.com/>